

2. 地形地質概要

2. 地形地質概要

計画地点は、山口市亀山町に位置する。これは、現在の山口市役所敷地内である。

山口盆地は、後期中新世からの応力場によって盆地として形成された。本地区は、現在の地形では一の坂川扇状地の扇端部に広がる平野内にある。

一の坂川は中国山地から山口盆地に南流し、樫野川に合流する2級河川である。

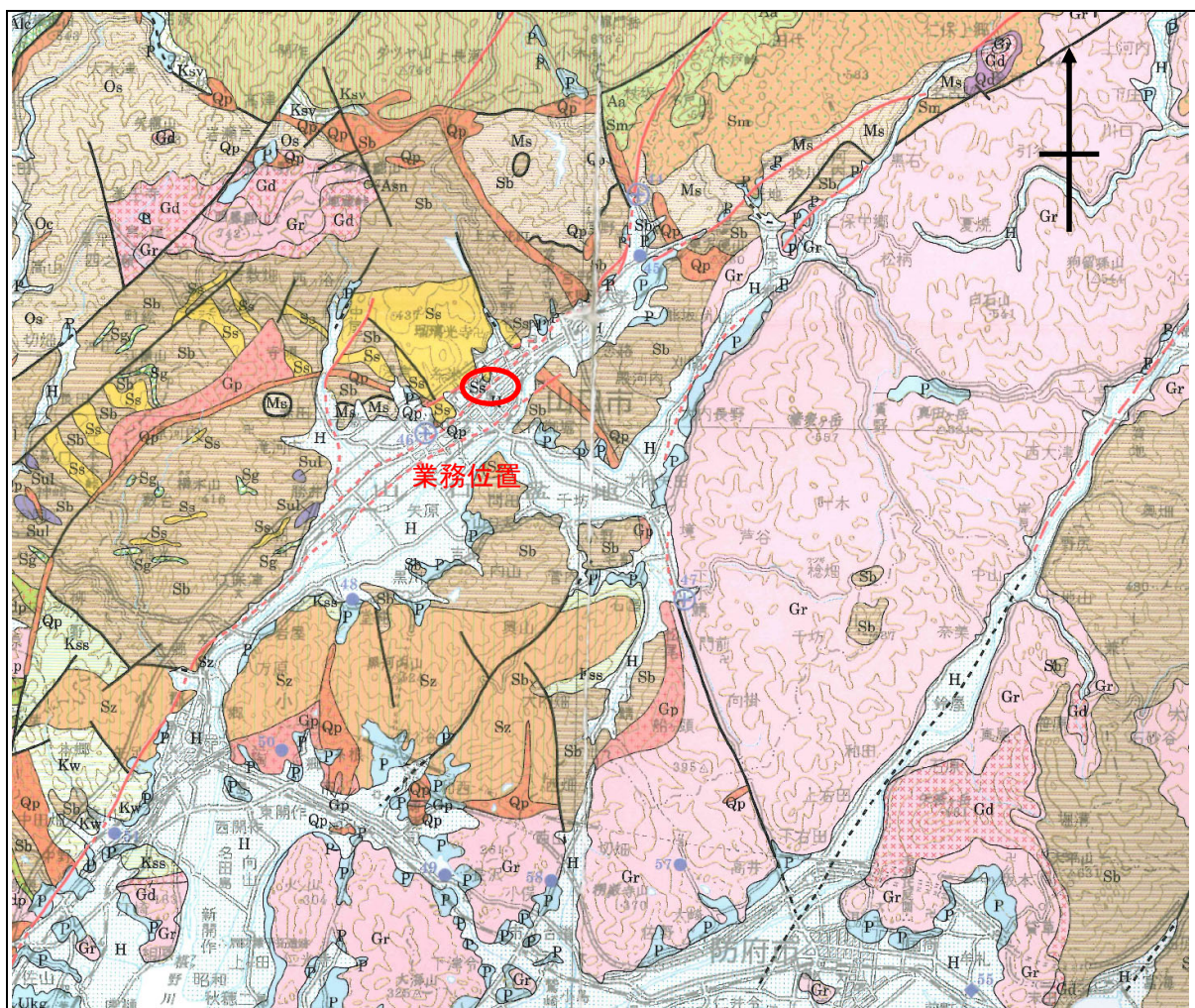
本調査地周辺の平地部では、一の坂川水系から供給された片岩質の砂を主体とした沖積層および盆地内に古く形成された洪積層の砂礫、砂、粘性土で構成されている。これらは一般的に $N=10\sim 20$ と比較的緩い締り具合であり、擁壁などの一般コンクリート構造物の直接基礎の基盤地質とはなりうるが、中層以上のビルなどの建築物の直接基礎としては適さない。

本地区の基盤岩をなすのは、中生代三郡変成岩の砂質の結晶片岩および泥質の結晶片岩である。結晶片岩とは、太古の地質時代に海底に沈積した礫岩・砂岩・粘土などの堆積物が、その後の地質変動で地中深く押し込まれ高压と熱作用で、もともとの土層が鉱物結晶となったものであり、「結晶片岩」と呼んでいる。

ここは、北東から南西に伸びる山口盆地のほぼ中央部付近で、北側に位置する山塊部からくびれたように伸びて、標高66mほどの孤高の形をなしている山塊の「亀山」の東南麓部である。

調査地は、この亀山の山麓部が造成によって標高30m前後の平地となっているところである。

なお、この敷地範囲外の南方や西北の平野部では、基盤岩は概ね、地表からの深度10m以深に分布する。



新生代	第四紀	完新世	沖積層	H	礫, 砂, 粘土, 火山灰
		更新世	洪積層	P	礫, 砂, 粘土, 火山灰
中生代	白亜紀	半深成岩		Q p	石英斑岩・斜長斑岩・珪長岩
		広島花崗岩		Gr	花崗岩
	三疊紀	三郡変成岩	周防変成岩	S b	泥質結晶片岩
				S s	砂質結晶片岩